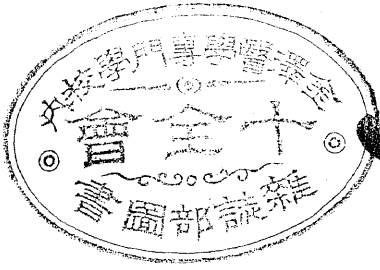


大正五年九月一日發行

十金會雜誌



九月四日

金澤醫學專門學校十金會

卷一十二第
號九第
(號八十二百第)

十全會雜誌(第二十卷第九號) 目次

○原著及實驗

●徵毒下血清反應。

醫學博士 土肥 章 司

●體隆起ヲ現ハシタル蛙卵ノ再生ニ就テ。

醫學博士 森 田 齊 次

○通信

●岩崎勝治氏通信。●内藤榮治氏通信。

○人事

●竹内慶太郎氏。●近藤益成氏。●柴山金雄氏。●德茂隆氏。●岩崎省三氏。

○會告

●校外特別會員會費納付調書。
●創立二十五年記念館寄付金第二十三回報告。
●同 第二十二回申込後現金領取ノ分。

20) Roux, Wilhelm; Gesammelte Abhandlungen. Bd. II. 1895.

21) Roux, Wilhelm; Programm und Forschungsmethoden der Entwicklungsmechanik der Organismen. Leipzig 1897.

22) Roux, Wilhelm; Vorträge und Aufsätze über Entwicklungsmechanik der Organismen. Leipzig 1905.

23) Rubin, Richard; Versuche über die Beziehung des Nervensystems zur Regeneration bei Amphibien. Arch. f. Entw.-Mech. Bd. XVI. 1903. P. 21.

24) Spemann, Hans; Entwicklungsphysiologische Studien am Torionei. Arch. f. Entw.-Mech. Bd. XV. P. 448—634.

25) Weismann, August; Das Keimplasma. Jena 1892.

22) Weismann, August; Vorträge über Deszendenztheorie. Jena 1913. Bd. II. P. 1-31.

27) Wolff, Gustav; Regeneration und Nervensystem. Festschr. zum 60. Geburtstag Richard Hertwig. Bd. 3. Jena 1910.



通信

●岩崎勝治氏通信 (三十八年卒業)

(前略)當弘前市は地勢の關係上由來仙臺醫專の勢力範圍にして金澤出さしては唯先輩の上野氏及び今井氏小生を合して僅か三名の處昨年千田常外氏當地へ赴任せられし以來強大なる引力を以て續々吸吮し今では都合九名の母校出身を算するに至れり

思ふに當地に於て斯く多數の同窓者の會する事蓋し空前なり依て茲に有志者相謀り舊交を溫め併て同士の勢力を伸張せしめんか爲め同窓會を組織し先般市内佐々木別館に於て第一回(宴會)を開會せり

先づ上野會長の開會の辭に次で誰に遠慮のなき兄弟同士の寄合談論風發或は金澤時代の懷舊談失敗談もあれば成功談も混じり尚上野氏の諧謔滑稽を始めとして相互の隱藝を演じて萬坐興の盡くるを覺めさりしか而し時計は人を待たぬまか既に午後十一時和氣洋々の間に母校の萬歳を三唱し一席の快を盡して散會せり因に午後時々同會を開催する心算なり

開業 會長 上野 忠君 (三十七年)

步第三十一聯隊 千田 常 外君 (三十八年)

輜重第八大隊 松井 源 長君 (三十八年)

開業

今井七兵衛君(三十九年)

歩第三十一聯隊

佐藤 武君(四〇年)

野砲第八聯隊

北村 一誠君(四二年)

歩第三十一聯隊

本多 隆元君(大四年)

歩第三十一聯隊

北村 虎治君(大四年)

弘前病院内科

岩崎 勝治君(三八年)

●内藤榮治氏通信

(大正四年卒業。京大研究)

(前略)當教室は高山教授岡林助教授の外助手三人副手十六人介補三人撰科五人研究科一人見學生七人(小生共)のFamilyに有之候見學生以外は同等の待遇にて見學生までも中々寛大の取扱を受け居候
外來新患は少きは三十名内外多き時は六七十名も有之再來を合すれば百五六十乃至二百名以上にも及び申候診察室は四ヶ所外に熱氣「ベラスツング」をなす治療室有之候外來「カルテ」の番號は四千餘名と相成り昨年に比し非常の増加に有之候昨年は約五千名ありし由にて候月水金は高山教授が新患を診察せらるゝ日にて火曜は再來(官費)を診察せられ其他は助手副手等の方が診察せられ候手術は毎火木土午後正一時より開始大抵七乃至十名有之今年正月より今日までに大少合し四八三有之候ひき小生僅々一ヶ月の間に子宮外妊娠の手術八を見申候分娩は一年に七八百有之由一日に三四人分娩

ある事種ならず候

研究室は二、研究準備室一有之候圖書室(婦人科專屬)は開放閱覽自由にて「リテラツール」も豊富に有之候小生は目下の處豫診檢尿の外火木土官費外來患者診察の「ユーアング」致居「ケアルト」も官費(「ゲアルト」は殆んど官費にて私費少く候)の者を見居候其外の時は婦人科的標本(切片)調製讀書致居候歸宅するのは大抵六七時に有之候

醫專出身者の内には岡山醫專多く京都府立、愛知、千葉、仙臺、熊本より來り居候新潟よりは來り居らず候既往症は勿論獨乙にて候が小生不十分乍ら書くことは出來申候

岡本規矩男兄も非常の熱心にて「アルバイト」の端緒を得たる由に有之候先日高山先生より御校より此度二名當科へ來らるゝ由き、申候が何方にて候やらんと奉存候去る十一日より暑中休暇となり休暇中は見學生は日割により火木土外來新患を内診するを得候(後略)

七月十四日

京都市上京區聖護院町字
山王十四、中島氏方

内藤 榮 治

※

※

※

※

※

※

※

※

※

※

人事

●竹内慶太郎氏 全氏は明治四十一年東京醫科大學を卒業せられ後ち一

ヶ年全大學に於て醫化學を專攻し尋て東京駒込病院に入り傳染病學を
修め後ち岩手縣盛岡病院長たりしが全氏の熱心なる研究心は須藤教授の
名聲は氏をして終に本校醫化學教室の研究生たらしめ去六月下旬より
孜々研究に従事申なり。

●近藤益成氏 全氏(大正三年卒業)は永く石川縣警察醫として各地を轉
任せられしが去る八月より石川縣石川郡安原村字下福増に開業せられた
り。

●柴山金雄氏 全氏(大正三年卒業)は此度内務省防疫官補に新任せられ
青森港の防疫事務に従事することになり去八月上旬赴任せられたり。

●德 茂隆氏 全氏(大正四年卒業)は卒業後入營して去十二月より臺南
守備兵となり臺南縣隊にて活動申なりしが此度除隊となり歸省して鹿兒
島市開業の西博士の下に研究中なり。

●岩崎省三氏 全氏(大正五年卒業)は和歌山縣那賀郡粉河町中病院にあ
りて研究中なり。

會告

●自大正五年七月廿六日校外特別會員會費納付調書
至全 八月廿八日

金 額	氏 名
一 金壹圓也	大正五年度分
一 金參圓也	自大正五年度
以 上	至大正七年度
三ヶ年分	早 藤 市 郎殿
	內 藤 三 太 郎殿

●創立二十五年記念館寄付金第二十三回報告

(八月二十八日迄ノ分)

金 額	氏 名
一 金參圓也	村 尾 純 昌殿
計金參圓也	
累計金四千貳百九拾六圓九拾五錢也	

●同 第二十二回申込報告後現金領収ノ分

(八月二十八日迄ノ分)

金 額	氏 名
一 金五圓也	岡 田 久 多殿
一 金百圓也	高 安 右 人殿
以 上	